

公益財団法人日本バレーボール協会 2017 年度臨時評議員会議 概要

1 日 時：2017 年 8 月 29 日(火) 13:00～14:00

2 会 場：日本バレーボール協会 会議室

3 出席者：

評議員総数 15 名

出席評議員 14 名

西川友之、梅野實、遠藤俊郎、杉山明美、木高譲、下村英士、田村悦智子、
福田順一、不老浩二、三屋裕子、柳橋武、山岸英一、山本章雄、
中島茂（第 1 号議案決議終了後に退席）

監事総数 3 名

出席監事 2 名

西川秀人、廣紀江

理事総数 15 名

出席理事 7 名

林孝彦、志水雅一、嶋岡健治、鳥羽賢二、桐原勇人、鍛冶良則、岡野貞彦

4 議 長：西川友之

5 決議事項

(1) 理事の追加選任について

6 議事の経過の要領及びその結果

議長が開会を宣し、本評議員会は、定款 24 条の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨を告げた。続いて、議事録記名押印評議員に福田評議員、不老評議員を選出した。議事開始前に林代表理事より、評議員会運営規程に基づく会議進行補助のための事務局員の同席、及び代表理事又は担当理事に代わる事務局員による案件説明実施について議長の許可を求めたところ、議長は事務局員の同席と発言を許可した。

(1) 理事の追加選任について

理事の追加選任について下記の通り説明が行われ、八田茂氏を理事に追加選任することについて賛否を諮り、これを承認可決した。

下記の通り説明があった。

8 月 2 日の臨時評議員会で承認を受けた定款改定は、「JVA の会長をサポートする体制を更に強化するために、専務理事の役職を置くことができる。代表権者を 2 名とすることができる。」ことを目的としていた。この結果を受けて、8 月 8 日にワーキンググループを開催

し専務理事候補者の人選についても話し合われた。

結果、本日理事候補者として推薦する八田氏が専務理事候補者として適任であるとのワーキンググループの結論に至り、8月22日の臨時理事会での理事候補者としての決議を経て、本日の臨時評議員会で八田氏の理事選任を提案する運びとなった。

続いて、八田茂氏について紹介があった。

■八田 茂 生年月日：1956年10月11日

現役職：株式会社ジャパンアスリートキャリアサポートセンター代表取締役

【推薦理由】

日本バレーボール協会の抱える最大の課題は、組織の建て直し・強化にある。

八田氏には、職務経歴書に記された経験と実績から、JVAの組織風土の変革や組織活性化に大きな貢献を期待できる。

特に、JOCキャリアアカデミーのディレクターやJリーグキャリアサポートセンター長として、各競技団体の多くのトップアスリートと信頼関係を構築されるとともに、各競技団体の事務局とのネットワークを深めてこられた経験と実績は、コミュニケーションの円滑化などを通じたJVAの組織活性化につながる。

また、このような経験と実績に基づき、加盟団体との円滑なコミュニケーション、日本体育協会・JOC・FIVB・AVCなどの外部団体やスポーツ庁・文科省・内閣府などの行政機関との連携や相互理解にも手腕を発揮して頂けることを期待する。

更に、リクルートや、新事業の開発推進と人材育成分野でのコンサルタントの経験と実績から、中期計画のPDCAサイクルの確実な実施、各年度事業計画への落とし込みと進捗管理、スタッフマネジメント、広報発信という分野での貢献を通じた組織風土の変革につながると考える。加えて、リクルート時代において磨かれた法人営業スキルは、JOCのアスナビでも遺憾なく発揮された。JVAにおいても、スポンサー企業など各種ステークホルダーの新たな組織化や活性化などを通じて新しい価値の創造にも踏み込んで頂きたい。

以上の観点から、組織を代表する会長を支え、組織固めを担う専務理事として、八田氏を推薦する。

なお、西川議長より、決議方法についての確認が取られ、満場一致により挙手採決となった。

議題終了後に、アンダーカテゴリーの試合結果と、NTCの共用コートでの床板剥離による負傷事故についての経過状況の報告があった。

以上をもって、議事の全ての審議を終了した為、議長は14:00に閉会を宣した。